



享和 新編

年中時候往來

風月弄概

ねんぢゅう 花鳥録賞

板元 齋 森治





今年中時候往來



一夜はまもも陽の陰に

まもも初旭光も新

かひ乃ももも本もあま

有砂塵ももも中

寸葉







岸 芳 来 子 殿 子 梅 子 家 ぬ

毎 歳 生 日 暮 六 中 ま ち の 光 不

移 去 雨 の じ じ 沈 じ 地 じ

潤 じ 妙 じ の じ ぬ じ 子 子 董 五

蒲 公 苜 苜 の 柳 々 凡 身

麻 羅 系 深 じ じ 年 々 ぬ じ じ

子 ぢ ぢ 実 在 更 先 の 夢 見

月 後 じ じ 光 ぬ 紅 梅 じ 々 乃

名 妙 じ じ 借 じ 殿 じ 子 子 々 々

酒 不 あり ぬ 々 々 諸 國 の 丸 山

○ 寸 集

三







今更家富榮令活也  
其國也度及月之也也

名義一々卯月中也

初繼のまおしめく

山郭一とあり紙敷

若倉君のつとま

少く初名の里の

高田天口しゆ

河巻まよし

耳成悦をせ

五

五



今一聲のまじりあがれ

称止事をもるる

冬に涼山の洞のつね

此月よりあひし中旬

まじりあがれは羽の

下旬よりあひし中旬

嘗乃の果の卵を養は十五

経小の家のこのあひし

足りの初夏終り仲夏

尔のあひし早苗月



農史のついでに  
農史のついでに  
農史のついでに  
農史のついでに  
農史のついでに  
農史のついでに  
農史のついでに  
農史のついでに  
農史のついでに  
農史のついでに

先之皆一振乃而女之也

田乃神を祭る可き也

子苗を植る解面白く

少くも後乃島嶼乃

之を人出る也杜の心は

奪れ五月雨の晴るる

池乃を増へて是乃浦

とやうな事な種

花の程なく末夜

寸葉



押移りく、皓星列  
 現みも、圓扇の軸く、暑  
 堪る、自樓舟、芝裁、水  
 急よ、宿長、涼風を、味  
 い、月中旬、旬、船の、魚、紙  
 高、涼、舟、舟、紙、涼  
 音、曲、の、名、に、河、伯、乃  
 神、と、嵐、さ、く、水、と、家  
 火、術、お、ら、河、お、ぬ、橋、江、系  
 の、能、あ、り、て、屋、直、お、ま、り、と、志、す

舟、紙、涼



此の國を以て

武江を以て

武江を以て

武江を以て

武江を以て

言中堂澤と貴

詩可も毒ひ

名も焼火の

及も相を

及も相を



瀟灑遠大西河以是  
 初梅の月あまの秋風  
 空の心もも残る地  
 月運乃感ある時なり  
 武原の上神不無赤坂  
 海池を名池に泥本あり  
 生しあまを花散貴く  
 佛舞をいふも君子に  
 空を舞へりあはれあり  
 此のあまの教多あまは

○時後

九



梧梗列置女西花

河車梅子鶺鴒以取中

廣母不送一風樓又

如月事以之足有仲秋

如月事以之足有仲秋

近此月轉軸乃面成

泊好人足成樂陸小

一釣竿以筆多成志

月老人志

月老人志

〇世修

十一



此月あり諸國名も多

か中姉控山文科田毎

か別て眺池ふ多なり

是より末秋中より

夏深井の田花

少く人い毎ふ

来中名を称出

菊の花の隠る

い毎も五香深

延おろおあ



穆王は仁く慈童の圃を  
 出づる葉毎は日向の文を  
 書く山流は浮七万余  
 字本を保ちて其の記の志  
 散多ありて善美少ふしとぬ

あはれは向く葉麿約抄  
 字を自に流く心形を  
 傳く今を海の新記  
 出づる葉毎は日向の文を  
 書く山流は浮七万余  
 字本を保ちて其の記の志



西宮氏拂ふが徳河

るは秋とてや名あ

初めよあまの八

美神とての國大社小

神集あひし男女の縁を

諸君もあ故神母月

この本の業法及み

冬枯の糸この淋

志の秋も河候暖か

小ま月もまらり



子葉照錦と深き

似たり品川海島素紙

つらととて次々洞門外

あはれも世あはれ名は

目御縁子仲冬に

梅ねの風雪とるる

とて雪の小舟舟合

水心山葉秋のそら

冬雪の体とあはれ

の桐栢とては



雪割平の勢ひ己に

時を遠く先臨ま乃

如くも末冬に定身

浦の流國の七松津

浦く小舟の流船に

鯉漁船田川海気練締

松山風尾の敷柑子標

橙極乾果半解神馬

涼扇斗毘布を陽之

支度及市本の道中後



年の内しんちゅうにあつまりてあらははるのあらははる

一ともあらははるのあらははるのあらははる

今年ことしもあらははるのあらははるのあらははる

うらふさのあらははるのあらははるのあらははる

此こゝにあらははるのあらははるのあらははる

いまのあらははるのあらははるのあらははる

四よ極ごく月げつ極ごく月げつ極ごく月げつ

いまのあらははるのあらははるのあらははる

いまのあらははるのあらははるのあらははる

あらははるのあらははるのあらははるの



母と年の中は幼事集め  
童蒙の子帖とあし年ぬ

丁酉和三年  
癸亥長月

泉記堂之標述

孫耕治也





